



患者の**声**から学ぶ 緑内障治療選択

座長 相原 一 先生（東京大学）

緑内障は慢性疾患であり、生涯にわたって視野を護るために継続的な治療が必要です。緑内障患者が治療を継続し、良好な視機能とQOLを維持することが、真の治療目標です。

近年、医療の現場では「患者中心の医療」が浸透しています。緑内障患者の治療選択においても、医学的根拠に基づいた治療方針だけでなく、患者自身のニーズ、生活背景、治療に対する満足度といった「患者の声」に耳を傾けることが極めて重要です。

本セミナーでは、「患者の声から学ぶ緑内障治療選択」をテーマとし、2人の先生にご講演いただきます。内藤知子先生からは、患者の進行状況を的確に評価し、加齢や視機能低下に配慮した治療選択をいかに実践するか、また薬局との連携を通じた治療継続支援についてご紹介いただきます。溝上志朗先生からは、患者が実際に点眼する際の課題と、点眼容器などの工夫による課題解決への試みについてご紹介いただきます。

患者の治療体験に基づいた実践的知見が得られるセミナーです。ぜひご参加ください。

演者1

内藤 知子 先生
(グレース眼科クリニック)

**患者の声を
聴く**

演者2

溝上 志朗 先生
(愛媛大学)

**患者の声に
応える**